小学5・6年生レヴェル国語文章読解問題 1B　01　解答と解説

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

民主主義という言葉を聞いたことがありますか。すでに学校の授業で学んだ方なら知っていると思いますが、簡単にまとめてみましょう。

民主主義とは、シンプルに言うと誰か一人の偉い人やトップの人の考えだけで物事を決めるのではなく、みんなで決めようという考え方です。たとえば昔は多くの国に絶対的な権力を持った王様がいました。王様が法律を決めていたのです。

王様が決めるのは法律だけではありません。国の発展のためにどんな作物をどれだけ植えるのかを決めます。国内で何か事件があった時に、犯罪者にどの程度の刑罰を与えるのかを決めます。隣の国と仲良くするのか戦争をするのかも決めます。現代で言うと、王様は一人で政治家であり、ア裁判官であり、外交官でもあったわけです。

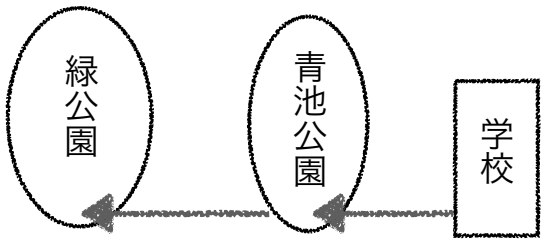
こうした一人の王様が何でもいろいろと決めていくスタイルに、次第に多くの人が疑問を持つようになりました。そうして歴史的には、ヨーロッパでは十八世紀の終わり頃から国によっては王様を廃止して、国民が選んだ人が政治を行うという流れが誕生したのです。

国民が直接投票をして物事を決める。または国民みんなが選んだ人が政治をする。簡単に言うとそれが民主主義です。一人のトップの考えで決めるのではなく、みんなの多数決で物事を決定するということです。クラスでやってみると、どんな感じになるでしょうか。

［イ］クラス三十人で劇の内容を多数決で決めます。投票の結果、「シンデレラ」が二十二票、「ヘビ男の秘密」が六票、「秋の山」が二票だとすると「シンデレラ」に決定です。クラスの半数以上が賛成しているわけですから、「シンデレラ」に投票しなかった人も決めた劇を一緒にやるのが民主主義です。

でも、こんなことを聞いたことはありませんか。「多数決で決めるのが民主主義ですが、少数意見も大事にしましょう」という話です。多数決をしたのに少数意見も大事にするなんてできるのしょうか。

こんなのはどうでしょう。遠足に行く場所をクラスで投票した結果、緑公園が二十七票、青池公園が三票だとします。緑公園に決定でいいはずですが、少数意見も大事にするなら、青池公園にも少し寄るという方法もありそうです。下の図のように、学校から見て青池公園と緑公園が同じような［ウ］にあるなら、遠足の目的地は緑公園でも、青池公園に立ち寄ることが可能で少数意見を大事にしています。



では、学校から見て緑公園と青池公園が真逆の位置にあるとしたら・・・私達はそれを大事にすることはできるのでしょうか。

実は多くの人が研究していますが、現在のところ有効な手段は見つかっていません。少数意見を大事にすることは簡単ではないのです。

（縞井　一樹「いびつな真珠を上手く弾く」より）

問一　傍線部ア――の裁判官（さいばんかん）のすることを文章中から二十四字以内で抜き出しなさい。ただし句読点は含めない。

犯罪者にどの程度の刑罰を与えるのかを決めます

問二　［イ］に入れるのに最も適している言葉を、次の選択肢から選びなさい。

1　しかし　2　だから　3　さらに　4◎たとえば　5　そして

前の段落で多数決の話で、［イ］の後がクラスで劇の投票という具体例になっている。

問三　［ウ］に入れるのに最も適している言葉を、次の選択肢から選びなさい。

1　大きさ　2◎方向　3　広さ　4　距離　5　楽しさ

青池公園と緑公園は学校から見て同じ方向なので、途中で青池公園に寄ることができます。

問四　本文中のクラスの劇は投票で「シンデレラ」に決定しましたが、この結果にどのように少数意見を入れることができるのでしょうか。

本文の遠足の例を参考に、自分で考えた案を書きなさい。

この問題の答えはいくつかあると思いますが、解答例をあげておきます。

解答例1：シンデレラの劇の中に、何かの役としてヘビ男を登場させたり、場所の設定の一部を秋の山にするなど、脚本を少し変えることで少数意見を取り入れることができる。

シンデレラらの中に取り入れるという意味があればいいでしょう。

解答例2：劇の時間が三十分だとすると、シンデレラを二十二分、ヘビ男の秘密を六分、秋の山を二分という時間配分で劇をつくる。

この答えは小学生だと書く人がいるのですが、票数どおりに六分や二分だとクラスのみんなでやる劇になりにくく、答えとしては△でしょう。